



太平洋戦争中、子どもはどんな暮らしをしていたの



おもちゃも遊びも漫画も戦争だらけの中で、学童疎開や農作業などで苦労したんだよ

国民学校で軍国主義の教育を受けた

1941年4月から、尋常小学校は国民学校になりました。そこでは、知識を増やすことよりも、体力づくりや、天皇をあがめること、「君が代」を歌うこと、「日の丸」や皇居に向かっておがむことなどのほうに、力が入られました。つまり、子どもたちは、「国のため、天皇のために命をささげる少国民」になるための、軍国主義の教育を受けたのです。おもちゃには飛行機・軍艦・鉄かぶとなどが現れ、遊びは「戦争ごっこ」がはまりました。漫画は、戦争の勝利を宣伝するものとなり、やがてはいらないものとして、出版されなくなりました。

学童疎開で苦労した子どもたちがいた

1944年7月、東京・大阪など13都市の国民学校3～6年生が、空襲に備えて、長野・群馬・静岡など13県に移り住むことになりました（学童疎開）。子どもたちは、お寺などに集団で寝泊まりして、勉強・洗たく・そうじをしたりして、くらししたのです。食べ物は量が少なく、いつも空腹の状態でしたから、自由時間には、野いちごや木の実を集めてきて食べました。石けんも着替えの下着も不足して、衛生状態が悪かったので、のみ・しらみになやまされました。

勤労動員にかり出された

1945年3月には、全部の学校の授業が停止されました。子どもたちも、農作業や、アルコールなどの原料になるどんぐり集め、ガソリンの代用になる松根油をとるための松の根っこ掘りなどに、かり出されました。

ことばの意味 軍国主義 国民生活で戦争や戦争準備のための政策・制度を最優先にする考え。